

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	・今後は年間計画を盛り込むとともに、議題も検討する予定である。ご利用者や家族、地域の方、市役所の方等が集い、情報交換ができる機会でもあり、国の通知に基づいて年間6回開催する。	・町内会長、民生委員、家族の方々等に介護保険法に規程する「運営推進会議」開催の趣旨を十分説明し、出席者、テーマを工夫し年間6回開催する。	・平成28年4月以降、偶数月の開催を基本にテーマを決定し、地域の役員、家族、五島市介護担当者等との意見交換を図る。なお、平成28年2月開催の報告書及び平成28年度の実施計画書(開催毎のテーマを含む)は、五島市長寿介護課へ提出済みであります。	12 ヶ月
2	1	・今後は「待つケア」「自立支援(できる能力の発揮)」をさらに強化する予定であり、毎年の目標作りを行うとともに「利用者と一緒に・・・」という意識を高めていきたい。	・職員全員で従来の「介護理念」とは別に「年間実践目標」を4月末までに作成し、利用者の状態を観察し、自立支援に向けた「さりげないサポート」を行うこととする。	・職員から提案された年間目標(スローガン)から専務、管理者、事務長、職員で選定し、グループホームの基本である「ともに利用者と一緒に共同生活する」という意識を高めていく。	6 ヶ月
3	26	・利用者の「できそうな能力」「自立支援」に目を向け、日々の役割を増やしていく予定である。アセスメントの特記欄に「要望」や「できそうなこと」を盛り込み、介護計画に反映するとともに、職員全員で共有・実践していく。	・介護度が重度の利用者及び車いすの利用者に対して、「危ないから・・・」等の理由で利用者ができることも職員が行っていることがある。利用者毎に「できそうなこと」等を洗い出し、「自立支援」に向けた支援を行う。	・「利用者のできること、能力等」を日々の介護業務の中から洗い出し、スタッフ会議等において「介護計画」に反映し、さりげないサポート、自立支援に向けた支援を行う。	6 ヶ月
4	2	・家族と一緒に地域の運動会に参加された利用者はいるが、グループホームとしての取り組みは不十分であった。今後は地域行事に参加できるよう年間計画を作り、勤務シフトの調整等を行う予定である。	・法人全体としては、何らかの形で地域行事には、ほとんど参加しているが、グループホームにおいては、「車いす」の利用者が多い等の理由で参加が少ない。事前に勤務シフトを変更して利用者全員でなくもと参加していく体制を確立する。	・事前に案内される地域のイベント等を早く周知し、スタッフ等の調整を行い、少人数でも参加する。また、外出についても花見、ドライブ、足湯、買い物等の年間計画を作成し、地域社会との交流が図られるよう支援する。	12 ヶ月
5					ヶ月